

情報共有 (2枚非管理メモ)

NISA班 ← プレス対応チーム

暫定版

プラント状況(本店会見)議事メモ

東京電力株式会社
12/27 (3:50') 広報班

~~取扱注意 公開不可~~

日時：平成23年12月26日(月) 18:00～18:40

場所：東京電力本館3階大会議室

先方：記者15名(カメラ3台)

当方：原子力・立地本部

原子力設備管理部

広報部

配布資料：

- 福島第一原子力発電所の状況
- 福島第二原子力発電所に係る原子力緊急事態解除宣言を受けて
- 政府・東京電力中長期対策会議 運営会議 第1回会合資料
- 政府・東京電力中長期対策会議 研究開発推進本部 第1回会合資料

[REDACTED] よりプラント状況、配付資料に関して説明。

質疑：

Q. 福島第一原子力発電所2号機における格納容器の内部調査の目的は、溶けた燃料は確認するのか。

A. 格納容器から損傷燃料を取り出し、廃炉に至るまでにどのような技術開発が必要か、現時点できれいな既存の技術によって可能なことを確認することが目的。ペデスタル底部、格納容器底部までイメージスコープを送り込むことはできないので損傷燃料の状況の確認は難しいと考えている。

Q. 格納容器内部調査において、2号機を先行実施する理由は。

A. 配管や電線管が貫通していない予備のペネがあり、作業時の線量の関係で2号機を先行実施する。3号機のペネ付近は線量が高いため、現時点では作業が困難である。1号機は現場確認が充分できており、また線量も高い状況である。

Q. 内部調査を予定している作業員数は。また、操作箇所の労働線量は。

A. 作業員の数は今後確認する。労働線量は、遅くまでに15mSv/h以下になると想定している。

Q. 1, 3号機格納容器の内部調査の予定は。

A. 2号機の結果次第で検討したい。1, 3号機の調査実施時期は未定である。

Q. 本日(12月26日)、政府の事故検証委員会が中間報告書を取りまとめて公表したが、1号機ICの弁の状況や3号機HPCIの停止に関する情報共有について、東電と見解が異なっており、東電としてどのように受け止めているのか。

A. 政府が中間報告書を公表したことについては承知しているが、まだ、報告書自体を見ていないのでコメント出来る段階ではない。しっかりと内容を確認した後、当社との見解に相違があればご説明したいと考えている。

Q. 政府の中間報告書では、1号機 IC や3号 HPCI、津波対策について、厳しい意見が出ているが、東電としてどのように受け止めているか。

A. 政府の中間報告書において、地震や津波対策に関してどのように記載されているか現時点で把握していないため、しっかりと内容を確認した後、当社との見解に相違があればご説明したいと考えている。

Q. 政府の中間報告書では消防車の配備について2007年の中越沖地震の教訓が活かされていないとの厳しい意見があつたが、どのように受け止めているか。

A. 中越沖地震の教訓として、福島第一、第二原子力発電所および柏崎刈羽原子力発電所の構内に、火災に備えて消防車を分散配置して常駐する対策を行っている。また、緊急時対策本部の設置される建物のドア枠が歪んで中に入れないということもあったため、各原子力発電所に免震重要棟を建設しており、今回の地震では免震重要棟の停電も発生せず、教訓が生かされたと考えている。政府の中間報告書の具体的な記載内容を把握していないため、しっかりと内容を確認した後、当社との見解に相違があればご説明したいと考えている。

Q. 原子炉への海水注水について武黒フェローおよび吉田前所長とのやりとりの中で、最初の注水は試験注水とするとの内容が報告されており、結果として国民を欺むく行為になると思われるが、どのように受けているのか。

A. 原子炉への海水注入については、統合本部として当時の内容を5月に公表しているが、その後、政府事故調査委員会がヒアリングした内容を記載しているかと思われるが、具体的な内容については、中間報告書を確認させていただく。

以上